

代表者会議【資料３－２】

【別紙】

基幹相談支援センター 実績報告/検証・検討シート（令和５年度） 茅ヶ崎市自立支援協議会代表者会議委員による意見

《全般》

- ・基幹相談支援センター設置は数年前から希望していたため、大いに期待しています。
- ・開所から半年で多くのケースに対応されており、順調に基幹相談支援センターとしての役割を果たされていることがわかりました。
- ・初年度から活発な活動が展開され、活動件数・内容とも幅広く取り組まれていると感じました。
- ・相談支援専門員の研修と実際の相談とのギャップに戸惑いつつ、日々相談を受けており、孤立しがちな相談支援員のサポートをしていただける基幹相談支援センターの存在はとても心強く感じています。
- ・とても親身になって相談を受けていただいているように思います。
- ・基幹相談支援センターとして昨年 10 月に開所したばかりですが、多岐にわたる相談支援を行い、また、市内のみならず、他市等との繋ぎ役を担い、市民が困らないような支援を実施していることがみえました。基幹相談支援センターとしての役割である、支援者へのバックアップをケースを通して行い、困難が生じているケースに対し、支援者が抱え込むことがないよう役割を担っていることが評価できます。
- ・相談支援の現状・傾向にある「相談員が付いておらずサービス提供事業所のみで抱えてしまい困難を生じているケースが散見された」の部分で、過去に相談支援との繋がりがあったが無くなったケースは、どの程度あったのか教えていただく事は可能でしょうか？
- ・意見も何も、実績が少なくて何をやっているのか、何ができるのかが見えてこないし、資料だけ見たら、機能しているの？という感想です。

《周知》

- ・当事者・家族に見えにくい事業なので、当事者団体とのコラボ企画等を開催し、露出を増やしていくことが大事だと思います。
- ・相談支援の現状と傾向で挙げられている中に、支援方針に対する共通理解のズレや相談員が付いておらずサービス提供事業所で抱えて困難を生じているケースが散見され、支援者間の調整を行ったとあり、行き詰まったケースを打開する一手ができたことはとても有難く感じています。しかしながら、まだまだ埋もれている困難ケースが相当数あるように感じます。基幹相談支援センターは課題整理や調整といった機能を有しているということをサービス提供事業所に対して、より様々な角度から周知していただくことができれば、動くケースが出てくるのではないのでしょうか。
- ・既に委託が関与していて特にバックアップを求める必要がないと見立てているケースについて、障がい福祉課以外の福祉関係課から、直接基幹に施設探しを頼みたいというレベルの相談が入ってしまったケースもありました。基幹、委託、指定の役割整理もそうですが、まずは関係機関に対して基幹の基本的な役割を知ってもらう（つまり委託や指定の役割も含めて）、周知の取り組みが必要であると思います（本来委託や指定が担うべきケースが基幹に流れることを防がなければいけないと思います）。

代表者会議【資料３－２】

【別紙】

《役割整理・役割期待》

- ・報告を見ると、従来の相談支援事業所が行なってきた業務と被る部分が多く、このまま個別ケース等が増えていくと、単に「新しい相談支援事業所がひとつ増えた」ということになりかねないと感じました。
- ・基幹相談支援センターに関しては、個別のケースを抱えてしまうことが増加しているとありますが、そういうことで本来の基幹の役割に支障が出てしまうことは、問題だと思えます。元の相談支援事業者自体のキャパがいっぱいの状態を解消しないと、基幹だけではどうしようもない問題だと思えます。
- ・個別ケースの対応が溜まってきているという課題について、基幹相談支援センターが本来の目的に合った活動ができるような市内の体制整備、相談の流れを基幹がより機能できるように整えていく必要があると思えます。
- ・基幹相談支援センターが個別のケース対応におられないようにすることが必要と感じます。相談員の質の向上&相談員が対応出来ること→利用者とサービス提供事業所をしっかりとつなぐ役割を果たせる→サービス提供により、利用者の生活がより良くなる、という流れを実現するためにも基幹の役割は重要と考えます。
- ・課題として記載がありましたが、基幹相談支援センターのみでケースを抱えている状況があるようですが、ケースを俯瞰して捉え、相談支援事業所に繋ぐことを意識して対応するとともに、地域の相談支援体制の構築に取り組んでいただきたいと思います。
- ・まずは基幹相談支援センターが立ち上がったことはよろしいことかと思えます。この間、様々な取り組みを行ってきているとは思いますが、そもそもの基幹相談支援センターとして少ない人材の中でできることが限られており、どのような役割を担っていくのかをはっきりさせる必要はあると思えます。
- ・障害福祉サービスの現場として感じていることは市内に４つある相談支援事業所の対応の仕方やスピード感などが違うため、戸惑うことが多いです。基幹相談支援センターがこういった市内の相談支援事業所をコントロールし全体の支援力向上につなげる役割を担っていただけることを期待しております。
- ・連絡会の在り方も含め、基幹が相談支援事業所をとりまとめていく場面が今後増えていくと、相談支援事業所からの課題集約の流れが分かりやすくなって良いのではないのでしょうか。会議体が多いので、統廃合を含め、整理されていくと良いと思えます。
- ・基幹相談支援センターについては、設置からまだ間がないので、更なる周知が必要と考えます。今後も引き続き、各場面において、周知活動や相談スキルを身につける研修等を行っていく事で相談件数の増加や機能向上に繋げて行けるようにセンターと行政との更なる連携も必要だと感じます。ただ、地域生活支援拠点等の整備については、一度、整理が必要で、各取り組みの役割やネットワーク全体的としての繋がりが見えない状況が続いています。また、重心の方の相談がないのは、医療ケアを伴うとその後の支援が受けにくくなる事があるのではないかと推測できます。医療ケア児等への実施可能で最低限必要な支援を明確にするためにも、実態把握のために、重心の方に対する聞き取りを行う事も必要だと思えます。また、権利擁護や虐待については、個々のケースについて虐待防止センターと情報交換を行うのではなく、傾向や課題を虐待防止センターと共有し、その対策や啓蒙に積極的に取り組んで行く事が求められている役割ではないかと思えます。

代表者会議【資料３－２】

【別紙】

- ・現在、市内の支援状況としては、福祉サービスの事業所数が急激に増え、グループホームを筆頭に利用が容易にできるようになった半面、相談支援体制がぜい弱で、計画相談・一般相談とも利用が困難な状況が続いています。その影響もあり、福祉サービスで充足できる方の生活は充実してきましたが、サービス以外の支援が必要な当事者は引き続き「支援が届かない」という状況が続いているように感じています。基幹相談支援センターの機能で、どの部分に注力するか、ということについては、自立支援協議会等で話し合い、市としてのコンセンサスを作りながら進める必要があるのでは、と考えます。

《セルフプラン》

- ・茅ヶ崎はセルフプランが多すぎて相談事業が機能していないし、ということは相談支援から市の問題点が浮かび上がってこないのが一番の問題かな、と思うので、長期的な目標を立て相談員の数とスキルを増やし、市民が困ったときにちゃんと相談員が関わって、何が足りないのか、どういう課題があるのかを抽出できるようにするのが緊急のやるべきことかな、という感想です。
- ・茅ヶ崎市の相談支援の方向性を明確にし、相談支援専門員の持つケースへのバックアップ・研修体制や関係者ネットワークを整備することがまず優先されるべきなので、個別ケース（特に相談支援専門員が不足しているために増加し続けるセルフプラン率）については、何らかのすみわけが必要だと考えます。
- ・特にセルフプランについては、湘南東部障がい福祉圏域での大きな課題となっているため、原因を明らかにして改善することが、センターに求められていると感じます。
- ・障害児支援利用計画を作成する相談員の不足からか多くの方がセルフプランでの利用となっている現状がありますが、強度行動障害の高リスクとされる児童だけでも、大事な幼少期から学齢期、思春期を相談員が中心となることで、福祉と教育が連携して一貫した支援を行う体制ができることを期待します。場合によっては、セルフプランでの利用でも可能な福祉と教育、事業所間での連携の手段について共に考える機会をいただけないものか、検討していただきたく存じます。

《相談員の質・量の向上、人材育成》

- ・設置をされてからの半年で多くの活動をされている印象を受けます。相談支援専門員の人材育成ではグループスーパービジョンを実施され今後も更に課題解決、改善も含め機会を設けていただき質の向上につながれることになると考えられます。同時にサービス管理責任者の質についても向上するための機会を拡充することも必要と考えられます。サービス等利用計画と個別支援計画との連携をするためには相談支援の質の向上だけではなく相互関係が大切なことだと思います。基幹相談支援センターの人材育成から学んだことを各相談支援所からスーパーバイザーを拡充させ市内の支援機関の相談にのれるようになっていければ良いと思います。
- ・基幹相談支援センターの設置により体制の整備は整ったと思われます。すでに問題も散見はされているようですが基幹相談支援センターをより機能的に活用していくためにも相談事業全般の質と量の向上は大切かと思われます。相談事業全般において相談量に応じ人的配置の増減を客観的に評価できるようなシステムの導入などで社会的にも適正評価

代表者会議【資料３－２】 【別紙】

を得られるようにはならないかと思います。

- ・スキルアップの取り組みについては、テーマを相談支援事業所や色々な機関から聞き取ったり一緒に考える機会があると良いと思います。
- ・相談支援体制の整備だけでなく、サービス提供事業所の質の向上という意味では、相談員だけではなく広い範囲での人材育成が重要であると思う。